

現代民俗学会 第 28 回運営委員会議事録

日 時：2014 年 4 月 26 日（日）13：00～14：30

場 所：成城大学

出席者：

（運営委員）及川、川田、島村、菅、塚原、徳丸、俵木、古家、宮内

（事務局）武井

1. 総務委員会（塚原委員）

1-1. 報告

以下の点につき報告された。

(1)年次大会関連

年次大会の個人発表の査読結果につき、以下の 1 件のエントリーがあり、審査の結果発表可となった。本人にはすでに通知済みで、すでに配信済みのサーチュラーにも掲載されている。

氏名：廣田龍平氏（筑波大学）

発表題目：タマシイはどこに留まるのか—仮設住宅における手作り仏壇からみる死者との関係性—

また、年次大会当日のプログラムは、すでにサーチュラーで配信された通りであると報告された。

(2)会誌発送作業

4 月 10 日（金）に、筑波大学在籍の総務委員・編集委員によって会誌発送作業がおこなわれた。

(3)前年度の会員移動実績

昨年度の会員異動は、入会者が一般 10 名、学生 11 名であり、退会者は自主退会者が 1 名であった。

1－2. 審議

(1)決算・予算

平成 26 年度決算報告および平成 27 年度予算案につき提案された。

予算案に関して、昨年度比 5 万円の増額となっている雑誌印刷費について、徳丸編集委員長より以下の通り説明があった。現行の編集作業では筑波大学の大学院生の負担が非常に大きくなっていること、研究活動上の支障が出ている。印刷業者イセブとの事前交渉の結果、大学院生が現在行っている編集業務の一部を委託することが可能であるとの回答を得ており、次号から委託を進めたい。については、業務委託費を雑誌印刷費に追加して、予算額を 500,000 円としたい。なお、印刷費用はページ数の増減により大きく変動する可能性があり、従来通りに収まる可能性もある。

以上の説明をふまえた審議の結果、誤植部分を変更のうえで承認された。

(2)3 年以上未納者の会員身分について

3 年以上未納者については、(a)会員名簿には名前を残すこと、(b)会員が持つすべての権利をもたないこと、(c)3 年を過ぎた会費は請求しないことが承認された。

(3)会誌の電子公開について

昨年度から引き続き進めている会誌の電子公開について、J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）あるいは今年度末運用開始予定の J-STAGE lite への登録にむけて調整中を進めてきたが、J-STAGEについては技術的な面から追加の予算が必要となること、J-STAGE lite についてはこれまでの経緯から運用に不透明な点が多いことなど、問題点が報告された。

それについて、事務局の武井総務委員から、大学の機関リポジトリへの掲載を検討すべきとの提案がなされ、審議の結果、以下の点が承認された。

- (a) 筑波大学図書館のリポジトリを経由して電子公開する
- (b) 刊行後 3 年経過したものを公開の対象とする
- (c) 当面は論文・研究ノートを公開の対象とする
- (d) J-STAGE lite の運用が正式に開始され次第、改めて利用を検討する
- (e) (d)のために、筑波大学リポジトリに対して事前に公開のポリシーについて確認する
- (f) (a)および(b)の事項につき、5 月 23 日の会員総会の審議事項とする

2. 編集委員会（徳丸委員）

2－1. 報告

以下の点につき報告された。

(1)一般投稿の審査経過

第7号には8本のエントリーがあり、5本の投稿が受理された。査読前の下読み期間は約1週間、査読期間・改稿期間にそれぞれ1ヶ月、再査読期間は約3週間、改稿期間は約3週間とし、2015年1月13日までに論文1本、研究ノート2本の掲載を決定した。

(2)依頼原稿

前回の運営委員会での審議をふまえ、飯倉義之・清水潤・大島清昭の各氏に特集論文を依頼した。特集の序文は編集委員が担当した。また、批評（4本）を掲載した。

(3)編集業務の経過

第7号は総ページ数122ページ、印刷費は395,280円（予算額は450,000円）となった。製版・印刷は、今号も株式会社イセブ（茨城県つくば市）に依頼した。

(4)第8号広報の開始

第8号のエントリーについて、学会ウェブサイトおよびメールマガジンにより広報を開始した。エントリーペースは5月31日（日）、投稿ペースは7月1日（水）となっている。

2－2. 審議

(1)編集費の費用超過について

今号では、特集論文の要旨につき、編集委員会の負担により、英文校閲2件および和文英訳1件を業者に依頼した。この費用として18,900円を支出した（予算額は8,000円）。この費用に関し、2014年12月23日の運営委員会メール審議の時点から支払いに至るまでに費用の変更が生じたため、以下のように訂正する。

（訂正前）英文校閲料6,000円（3,000円×2点）、日本語英訳料8,000円

（訂正後）英文校閲料6,300円　日本語英訳料11,200円

この訂正是業者からの見積額が正確なものではなかったことに起因している。今後は、依頼する原稿の分量（単語数）をより明確に提示し、正確な見積額を求める所としたい。

3. 研究企画委員会（川田委員）

3－1. 報告

以下の通り報告があった。

(1)年次大会について

すでにサーチューラーで回覧されている通り、5月23日の年次大会では、研究企画委員の松岡薰・伊藤純の両氏をコーディネーターとして、シンポジウム「円環する〈民俗学〉的知—学校教育と文化行政の現場から再考する—」を開催する。

(2)次回以降の企画について

夏期研究会は、関西ユニットの島村・梅屋両氏をコーディネーターとして、研究会を開催予定である。内容の詳細については島村委員から、「物質文化」に関連する研究会を実施する予定である旨、報告があった。

その後の研究会は、

秋期研究会：金子・塚原

冬期研究会：近藤祉秋・菅・塚原

春期研究会：鈴木

2016年度年次大会：塚原

2016年度夏期研究会：関西ユニット

と担当がすでに割りふられており、今期委員の担当になっている定例研究会については、すでに実施に向けて進行中である。研究会以外についても、隨時開催する可能性がある。